

# 旧北荷頃小学校体育館を利用した カフェテリア家



## 荷頃小学校の歴史

旧北荷頃小学校は、旧北河内郡（現北河内郡）にあり、明治23年（1890年）に創立された。校舎は12年間の河内大震災（1947年）に全壊された。戦後、1949年に新校舎が完成し、1950年に現在の校舎が完成した。1982年に、旧北河内郡と旧河内郡が合併し、新北河内郡が誕生した。この合併に伴い、旧北河内郡の小学校は、新北河内郡の小学校に統合された。旧北河内郡の小学校は、新北河内郡の小学校に統合された。旧北河内郡の小学校は、新北河内郡の小学校に統合された。



このマークが目印！

荷頃 cafe

西谷川

菅野寺

長岡造形大学の周辺地図

西谷川 荷頃地区の自然と歴史を伝える。西谷川は、西谷川を源流とし、西谷川を流れている。西谷川は、西谷川を源流とし、西谷川を流れている。

## 荷頃地区の特徴



山に囲まれていて自然豊か  
新築の建物の木造建築という歴史をもち、旧北河内小学校がある。新築の建物の木造建築という歴史をもち、旧北河内小学校がある。

過去に河内の人々の生活の様子と歴史の交流が行われていた。



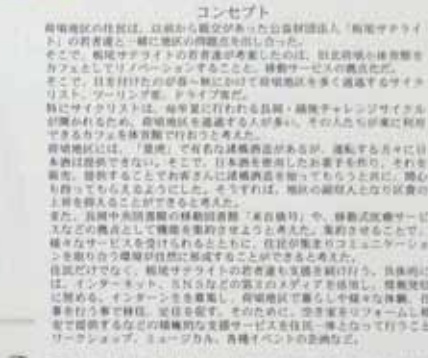
## 東守神社

専門家を造り、専門大規模なまつり山笠舞。毎年神社には「舞っ子」と呼ばれる文字舞家が奉納されている。

長岡造形大学主催のワークショップの様子

橋尾サテライトの活動の様子

長岡中央図書館の移動図書館  
BM(book mobile) 車両番号  
移動図書館「景虎」は、以前から荷頃地区センターまで図書サービスを行っていたバスである。  
七月上旬に読み聞かせや、ワークショップなどの様々な企画を小学校、その他公民館で行っている。



## 荷頃地区の問題点

- ・人口減少  
長岡市は人口減少が続いており、荷頃地区も例外ではない。人口減少により、地域の活性化が難しくなっている。
- ・生活基盤サービスの低下  
生活基盤サービスの低下により、地域の活性化が難しくなっている。
- ・高齢者の増加  
高齢者の増加により、地域の活性化が難しくなっている。

## 敷地平面図

- ・生活基盤サービスの低下  
生活基盤サービスの低下により、地域の活性化が難しくなっている。
- ・高齢者の増加  
高齢者の増加により、地域の活性化が難しくなっている。



サイクリスト達が行く先々で必要とするのは、自転車を駐輪する場所だ。  
サイクリスト達が使用している一部の自転車（ロードバイクやMTB等）には基本的にスタンドが装着されていない。そのため、カフェには専用の駐輪場所を整備した。こうすることで、カフェを利用しやすくなり、駐輪におけるマナーの向上にもなる筈だ。

体育館には、元々大きな窓ガラスは無かったが、景色が良いのと、風が抜けやすいことから、大きな窓を設置した。この窓は左右から開き、真ん中で重なり合うようになっている。そうすることで、通気性を向上させ、夏でも快適に通気できるようにした。入口の前には、ウッドデッキを設けた。入口のすぐ横を見れば、スイーツの製作風景を間近で鑑賞することができる。



駐輪場は、自転車のサドル部分を上部パイプに掛けることで駐輪しやすいようにした。

「景虎」を使用したロールケーキ（お土産用）

カフェでも提供するバウンドケーキ

諸橋酒造「景虎」日本酒だけでなく、梅酒も製造している。



荷頃地区で有名なものは、諸橋酒造の日本酒「景虎」があげられる。ドライブ客は、それをお土産に買っていき事ができるが、サイクリング、ツーリング客は恐らく不可能だろう。そこで、考案したのが日本酒を利用したスイーツの製品化だ。スイーツにしてみれば飲酒運転にはならない上に、酒瓶1本よりかさばらずに済む。何より、「景虎」の名前をスイーツの分野で広められるチャンスになる。お土産用のロールケーキや、一口サイズのバウンドケーキなどなど、日本酒の活躍の場は若者と住民たち次第で広がるはずだ。